



ゆかりのGOAL前編、中編、後編のあらすじ

道端のドアから入った別世界。

帰りのドアを求め さまよう

唐突に

「ゆかりは救いの使者」という

階層世界研究所の人。

ビジターの猫が不死身になる前に、

退治できるのはゆかりだけだ、と。

化け猫を倒して世界を救わなきゃ。

それから、うちに生還しないと。

決戦を前にゆかりはナーバスに。

その時！突如、非常のサイレン！

サイレンに、調査を急ぐオペレーター。

「侵入者です！・・・なに集団だ！？」

襲撃者、礼服軍団！

強引にドアを蹴破り、突入してきた。

「理解して逃がしてくれたと思ってた・・・。」

麗香はうろたえ、

「・・・帰りたくない。」

「そういえば、千恵さん、何か言ってたな。

ゆかりさんのこと、逮捕する、とか

・・・ゆかりさん！どこ行ったっけ？」

ここを出て、2人で見下ろす

コーヒーラウンジ。

サイレンに

「何が、・・・？」

とゆかり、見回した。

廊下を走った、今の、・・・礼服？

駆けていく1人がゆかりと目が合って、

「あー！麗香さま！おーい！こっちだ！」

見つかった！

ゆかりは向こうの戸に逃げる。

「こんなところで、つきとめるんかい！」

いくつものドアをくぐって逃げ込んだ

チェックの床のコーヒーラウンジ。

「ゆかりさん！」

上から克哉の声がした。ゆかりは、

「どこ？」

と辺りを見回す。

正面に 白衣の集団 かけつけて

ゆかりの方へ 押し寄せてくる。

「ゆかりさん！ぼくらの後ろへ、さあ、早く！」

その時！背後に礼服軍団！

どうすんの！？

ゆかり、極限パニックに。

白い方へと ひとまず飛び込む。

黒と白、チェックの床のラウンジで、女王を取り合う

これって、チェスか！？

殴る蹴る、その中、ゆかりが逃げ惑う。

麗香と克哉、見下ろし、あ然・・・。

ラウンジは、ゆかりをめぐる大混乱。

克哉がぼそっと、

「人手が足りた・・・。」

ハッとして麗香が見上げた克哉の目。

アイコンタクト。麗香がうなずく。

ケータイ取り出し麗香、部屋の奥。

克哉がつぶやく。

「麗香、急いで・・・。」

『お前たち！』

スピーカーから一喝が。

礼服軍団、ハタと止まった。

「あの声は・・・？」

黒い奴らがざわついた。

「今のお声は・・・？」

「大旦那さま??」

ラウンジの音響放送システムに

麗香のケータイつながっていた。

『麗香から事情は聞いた。

お前たち、今すぐ麗香の指揮下に入れ！』

声がしたスピーカーあたり見上げたら、

毅然と立ってる麗香と克哉。

「麗香さま・・・白衣が凛々しい

・・・じゃあ、これは??」

「『これ』って言うな！あと、腕、放せ！」

腕利きの、星家のつわもの集めれば・・・。

克哉の思考に、麗香、感動。

「どうなんだ？」

「『空き』を全員よこすって。

どういう風の吹き回しだか・・・。」

「大旦那、・・・。」

腑に落ちない、と執事長。

「聞いてましたが、ばかげてますぞ！」

「やらないと、世界が滅ぶというからねえ・・・。」

「ですから、それが、ばかばかしい、と・・・。」

麗香さま悪く言う気はないですが、

話の中身はむちゃくちゃですから・・・。」

執事長、渋い顔だが、

大旦那、何か思い出し、ニヤニヤしてる。」

「千恵の奴、ベンチでケータイ睨んでて、

俺が呼んでも、気がつかんのだ。

気づいたら、あわてて隠して、ごまかした。

はばたいてみたり、おもしろかったぞ。」

「隠し事？大旦那さまに、失礼な・・・。」

「そう思うだろ？だから、没収・・・。」

「今夜にも、千恵にはきつくお仕置きを・・・。」

「もう、いいだろう。事情はわかった。」

「・・・？」

「ゆかりから、妙なメールをもらってた。

中身が、まさに、ばかげていてな、

事実でも、言いにくかろう。

俺だって、写真なしには、信じたかどうか・・・。」

「写真、とは？」

いぶかしがった執事長。大旦那様は 含み笑い。

「知ってるか？別世界では1万円、

竜馬じゃなくて、福沢諭吉・・・。」

文章と写メのプリントに執事長、

「こんなの、おもちゃに決まっています！」

「決まってる？決めてるんだな。決めつけだ。

真実はよく、それで埋もれる。」

「この画像、この解像度、ハンパじゃない。

最高級の次世代機種だ。

撮影が、全くぶれず、すごいんだ。

こいつ、よほどの 写メの達人・・・。

限度まで、拡大して見て、驚いた。

最先端の造幣技術だ。

ニッポンと、ほとんど同等、それ以上。

別世界での『日本の紙幣』だ！」

「そうですか・・・。他の者ならいざ知らず、

『金融魔王』がおっしゃるのなら・・・。」

「別世界・・・。

ホントにあるかも知れないな。

麗香をちょっと、否定し過ぎた・・・。」

「いや、別に、すっかり信じたわけじゃない。

何はともあれ、話してからだ。

人を出す条件として、麗香には、

1度帰ると約束させた。」

執事長、目を見開いて

「麗香様、お戻りになる！それは、何より・・・。」

「わかろうと向き合う姿勢を忘れたら、親子も壊れる。

そう思わんか？」

執事長、特に応えて言わないが、

直立のまま、しみじみ聞いている。

「その前に・・・魔獣の件だ。

事実なら、予測がつかん難題かもな。

・・・花村よ。

あの替え玉の件もある。お前がしっかり決着つけろ。」

礼服の大軍団が輸送ヘリ ほぼ乗ったのを

窓から見下ろす。

執事長、ゴーグル正して歩き出す。

目指すはヘリのパイロット席。

作戦を 伝えてその後に、

カフェテラス。麗香は椅子に腰を下ろした。

どっちみち、援軍待ちと日の出待ち。

緊張しても仕方がないし。

休憩と、山狩りプラン再チェック。

日の入り眺め脳を休める。

「よお、麗香。」

克哉の声に振り返る。

「少しはB型、見直しただろ？」

「まあ、そうね。そういうことにしておくわ。

でも結婚は期待しないで。」

麗香から機先を制したひと言に、

克哉はさっそくことばに詰まる。

「失礼な逃避であなたを断ち切って、

もうつなげない、とってくれる？

L o v eよりも、私はW o r kを選んだの。

あなたに未練は残ってないわ。」

「違うでしょ。」

ゆかりが現れ、言いきった。

「未練はない、って、絶対、ウソだ。」

「ゆかりさん・・・

あなた、明日の主役でしょ？

さっさと食べて、寝ておかないと。」

「結局は、とどめの1振りだけだ、って、

そう思ったら楽になったの。」

「だとしても、私と克哉の話なの。

あなたに口出しされたくないわ。」

立ち上がり、麗香はゆかりに突っかかる。

よくよく、かんにさわるみたいだ。

「・・・名案ね・・・この一件が終わったら、

2人で結婚しちゃえばよくない？

ゆかりさん、克哉のことは任すから。

私は仕事に専念できる。

わかるわよ。あなた、克哉が好きでしょう。」

からかわれても、ゆかりは冷静。

「麗香さん、どうしてホテルを見に来たの？」

今度は麗香がことばに詰まる。

「あんなとこ、寄り道しないで行っちゃえば、

あたしが結婚させられてたかも。」

とりあえず、その顛末はわからずに

克哉は2人を傍観している。

「1人きり、K・S・K に行く前に、

好きな人の顔、見ておきたくて？」

目が泳ぐ。麗香は凶星を指されてた。

「でも、・・・もう私、やめるわけには・・・」

「君の言う やりがい のことは、わかったよ。

妻を支える。それじゃあ、ダメか？」

「・・・・・・・・星がきれい・・・・・・・・。」

背を向け、真上を見てるのは、

こぼれる涙をこぼさないため？

こっそりと、克哉、麗香のすぐ背後。

ゆかりはこっそり、後ずさりする。

「星がきれい？」

・・・・・・・・キレイな星は、『星 麗香』。

もうすぐ『星』じゃなくなっちゃうけど？」

「Bおとこ。ヘッドバットで撲滅よ・・・・・・・・。」

麗香は 額を克哉の鎖骨へ・・・・・・・・。

もう、ムリだ。もう、これ以上、見てらんない。

ゆかりは 足音 気をつけ 立ち去る。

その後は、夕食食べても、ベッドでも、

ゆかりは、何か、幸せ気分。

「お2人さん、ごちそうさまでございます。」

手を合わせてから布団をかぶる。

いろいろとパニックだった3日間、

ひとまず明日、ひと山越える。

その時に備えるために、というよりも、

疲れたゆかり、爆睡状態。

目が覚めた。

既に正午を回ってる！？

気まずく、そっと、スタジオはいる。

「ゆかりさん。むしろ、ベストなタイミング。」

そろそろ的が絞れてきたわ。」

モニターを 肩を並べて見上げてる

ゆかりと麗香に軽くどよめき。

「どろぼうめ。」

ゆかり、振り向き 後ずさり！

「執事のおじさん！どうしてここに？」

「ゆかりさん、私のコレを すったって？」

麗香がたずねる。カギ揺らしつつ。

「最初から『拾ったカギ』って言ったじゃん。」

執事は目を閉じ、顔赤らめる。

「もう1つ、不快な報告聞いたけど

・・・私の部屋を荒らしたそうね？」

アイタタタ・・・。

旗色、悪し！

どうしよう・・・？

だけど、あれって、元はといえば・・・。

「『逃げちゃった花嫁さん』が

仲直りしてくれないとあたしが困るの。

復縁の手掛かり探して・・・ありました。

深刻なことが真っ赤な文字で・・・。」

「花村さん！そろそろヘリの支度して！」

ほら、ごまかした。花村、キョトン。

「ゆかりさん、斧は忘れず持ってって。」

あれれ？今ので、行動開始？

「由良岳の、D-5 拠点で決定ね。

全員乗って。出発するわよ。」

指示を受け、残った所員全員が、

ヘリが待ってる広場へ急いだ。

もしかして、待機の全権握ってる麗香の背中を、

あたしが押した？

斧を持ち、

『介錯』というヤな仕事、

やるって実感わいてきちゃった。

「ゆかりさん、さあ、行きましょう。」

しんがりで、麗香と並んで ゆかりが歩く。

「麗香さん・・・克哉さんとは、別行動？」

「あいつは、魔獣に会いに行ったわ。」

まだ、どこかゲームみたいに思ってる。

そういう体力、無限だけどね。

スポーツは・・・テニスの腕はプロ級よ。

でも戦いじゃ、役立つかしら・・・？」

品定め。あの時の見立て、狂い無し。

あたし、スゴイ！と カラ元気を出す。

へりに乗る。

励ましてくれる所員たち。

プロペラの音は大きくなってく。

花村と 確認交信する 麗香。

OK出して、ヘリが飛び立つ！

すごいメカ。

ヘリからの眺め。

猫殺し。

・・・いろんな意味で、ドキドキしてる。

旅行じゃない。

職務で赴く兵士なら納得しても、

それとも違う。

永遠に着かないで。

とか思ってる。

飛んでる気分が 世界一、重い。

由良岳に

ゆかり、参上！

斧構え、気分どんより、目は泳いでる。

所長から、責任もって

段取りが説明されても ゆかりはうつろ。

「誘い込み、化け猫を網に絡め取り、

連れて来るまでお待ちください。

・・・捕まえて、押さえつけてる化け猫の

首に一気に振り下ろすのです。

・・・ゆかり様、お願いしてるお仕事は、

斧、振り下ろす、1回きりです。」

あまりにも、カンタンな仕事、

でも、ゆかり、

やっとの思いで のみこんでいた。

化け猫の巣穴は全部封鎖して、

このすぐ近くで戦ってるとか。

銃声か？

そんな作戦、あったっけ？

麗香と克哉と、所長もいぶかる。

外敵をやっつけるにはどうするか？

人間はとにかく、銃器に頼る。

念のため、持ち込んでいたライフルで、

化け猫に向けて一斉射撃！

礼服の「狩猟クラブ」がしたり顔。

瀕死の化け猫、苦しみもがく。

うずくまる、細身の白い獅子のよう。

起き上がったら、すでに 無傷に。

四つ足で歩く背丈がおとなくらい。

いで立ち、【狂気のメスのライオン】

「気のせいかな？でっかくなっていませんか？」

狩猟クラブは後ずさりする。

狂おしく吠えて暴れる化け猫に、

動きを鈍らすこともできない。

睨まれた 狩猟クラブは敗走し、

追う化け猫に、

網が飛んできた！

「捕えたか！」

化け猫、網に絡まった。

・・・ところが、爪で網を切ってる。

約100年

ネコ生経験豊富だと、

少しもあわてず網を切り取る。

飛び付いて抑えようにも、爪が出て、

網から出るまで手がつけられない。

他の区で行動していた礼服も駆けつけてくるが、

何もできない。

勇ましく肉弾戦を挑んでも、

力と速さに対抗できない。

礼服の屈強軍団、

次々と、化け猫の前に蹴散らされていく。

銛を打つ。

瞬間冷凍。

麻酔ガス。

何をやっても効果が出ない。

「放射能 吐かないだけが 救いだな・・・。」

「捕まえるなんて、とんでもないぞ？」

捕まえる策はすっかり尽きている。

まだ何人も立ち向かってるが・・・。

「何だって!？」

所長が聞いた報告は、絶望感が高まるばかり。

そこにいた

麗香に克哉、オペレーター、真央や花村、所員も騒然・・・。

「捕えても、捕えなくても、

あの方が奴を斬ること、考えなければ・・・。」

「あの方」は・・・

「集中する。」

と言ったきり、誰の話も はなから 受けない。

花村は 所長に呼ばれ、協議して、

作戦変更 余儀なくされた。

花村が、ゆかりに作戦伝えても、

ゆかりは反応してない感じ。

「ゆかり様、あいつをここへ誘います。

テニスのように振ってくだされ！」

聞かずとも、わからせてやる 腹づもり。

同じ説明 6回 やった。

「いいですな！」

最後に強く言いおいて、

花村、駆け出す。

化け猫のもとへ。

「・・・ちょっと、待て！」

ゆかり、今さらわかりかけ、

はなしがちがう、と青ざめていく。

化け猫が

作戦通りに誘われて、

ゆかりの視界に入ってしまった。

礼服を 蹴散らした末、化け猫は

ゆかりの方へ猛ダッシュした！

「かかったぞ！」

「お願いします！」

「ゆかり様！」

「このワンチャンス……。」

「全てが、決まる……。」

迫りくる化け猫を前に腹くくり、

「ここだぁー！」とゆかり、

斧 振り下ろす！

空振りか？

敵はゆかりの右にいて、

睨んだゆかりに殺意を認めた。

睨まれて・・・

おののくゆかり、後ずさり。

1人狙いで化け猫が追う！

爪を振る 化け猫相手に

転げたり ダッシュしたり で

ゆかりが逃げる！

岩壁が・・・

ゆかりを阻む。行き止まり！？

その背後では・・・

化け猫、ニヤリ・・・。

「殺される・・・。」

岩壁を背に 腰が抜け・・・

魔獣の前に ガクガク ふるえる・・・。

「ゆかりさん！！」

克哉が叫ぶ。

戦力は、奴には無力。なすすべがない！

< 儚いなあ

人生、たった20年。

走馬灯 って、本当なんだな

大好きな、家族のみんな、

陸上部、

ブログ、

合コン、

好きな番組

目に浮かぶ。

『感動！木村動物園。』動物と話すクララ のコーナー

. . . ? >

賭けるしか

ゆかりは魔獣の目を見つめ、

何度も 何度も まばたきをした。

化け猫は、目を見返してうなってる。

ゆかりは はっきり まばたきをした。

化け猫は、威嚇のように吠えている。

怒りをあらわにゆかりを睨む。

「どうしたの・・・？」

「化け猫が歩を進めない・・・？」

麗香が敵の異変に気付く。

「おい！今だ！今捕まえろ！網をうてえ！」

「手を出さないで！」

と ゆかりが叫んだ。

「まばたきは・・・」

テレビでクララが言っていた、

「猫の世界のキスなのですよ。」

「もしかして・・・。」

ゆかりは、そっと、斧を置く。

からだをすくめて猫はうなってる。

化け猫と 視線をそらさず まばたきを。

猫の目つきが、かわいいような・・・？

「あなたって・・・」

ゆかりが猫に歩み寄る。

「愛されることに飢えていたのね・・・。」

化け猫の、野生の獅子 という姿、

変わらないけど、何かが違う・・・。

近づいて

「花子！」

と呼んだ ゆかり見て、

化け猫は、キッ！と顔が変わった！？

近づいたゆかりに

化け猫、飛び付いた！

ままよ、とゆかり、毅然と立ってる・・・。

化け猫が

ゆかりの肩に飛び乗った。

既に霊体。体重は無い。

「ねえ、花子、

昔、こうして遊んだの？

愛された頃を、思い出してる？」

鼻先で ゆかりの頬をつつく猫。

涙浮かべて

「ニャーオ」

と鳴いた。

その涙、

光と化して、広がって、ゆかりと猫を包み隠した。

帯となり 雲へ伸びてく その光、

天国と地の架け橋のよう。

天空へ光の帯は吸い込まれ、

静寂だけが後に残った。

あの場所に 猫のがい骨

そよ風に吹かれて崩れ 風で消え去る。

「花子さん、

同じ世界の あの人に

看取られたから、帰れたんだわ。」

「・・・でも、麗香・・・

なあ、ゆかりさん、どうなった!？」

克哉の声に、みな、ハッとした。

残されたみんなが にわかになぞめいた。

「この道づれで・・・死んでしまった!？」

ドーベルが 涙流して

「あの人に、ありがとう さえ、まだ言っていない・・・。」

礼服の一同、肩を震わせて、

白衣のみんなは泣きじゃくってる。

「ねえ、克哉、そうだとすると、

あの方は、こっちの世界にいちやいけない人。」

手を合わせ麗香が言った。

「ありがとう。」

平和な山が夕陽に染まる。

道端に 女が 1人 倒れてて

子猫が しきりに顔をなめてる。

番組じゃ、

「遭難した、とみられてた女性が

先ほど保護されました。」

病院に ゆかりの母が駆け付けて

すやすや眠る娘に 安ど。

お医者さん、

「怖い夢でも見てたのか、

うなされてたけど、落ち着きました。」

母親は ゆかりの服を持ち帰り

洗濯をする、これも幸せ。

仕分けした ゆかりの服のどれかから

「れいか」と書いてるカギが落ちてた。

「何だ、これ？後で聞こう・・・。」

と寄せといて、カギはそのまま忘れ去られた。

1年後。

ゆかりはデートに遅刻して、

彼氏の健司はあきれて愚痴る。

「ごめん、ごめん。

調べてたこと、まとめてて・・・

そんなことより、さあ！ゆきましよううー！」

スタスタと歩くゆかりの背中見て、

健司はため息。目は笑ってる。

「まいるなあ～。オレより夢が大事、かよ。

・・・でも、まぶしくて、たまらないなあ。」

歩み寄る健司に腕を組むゆかり。

どんなゴールに向かうのだろう？

「ねえ、健司、・・・

幸せ呼ぶのは、力より、愛 だと思う。

そう思わない？」

GOAL

あとがきにかえて

全4巻、読んでいただき、光栄です。ちょっとひととき、

10の設問。

*突然に、セレブの家族になるチャンス。

以前の家族は失くすが、しあわせ？

*「あなたって、血液型がナニだから、・・・。」

偏見言われたことありますか？

*会った人、実は、迷子の異次元人。

手助けしますか？差別しますか？

*恋人が、私を想う暗号をカーナンバーに。

それって、あり？なし？

*今、ここに、存在してる意味がある。

自分にもある、と信じてますか？

*白と黒。敵は絶対、敵ですか？

共通テーマで手を組めませんか？

*決まってる？決めてるんだよ。決めつけた。

真実もそれで埋もれる。ホントに？

*わかろうと向き合う姿勢忘れたら、

親子も壊れる。そう思わない？

*魅力 とは？ 容姿？ 財産？ 戦闘力？

着想？ 慈愛？ 夢への力？

*みなさまへ。

しあわせ呼ぶのは 力より 愛 だと思う。そう思わない？

最後までお読みいただき、心より深く感謝を申し上げます。

このおはなしは、フィクションです。

ゆかりのGOAL、リンクは、こちらです。

[*ゆかりのGOAL前編](#)

[*ゆかりのGOAL中編](#)

[*ゆかりのGOAL後編](#)

